

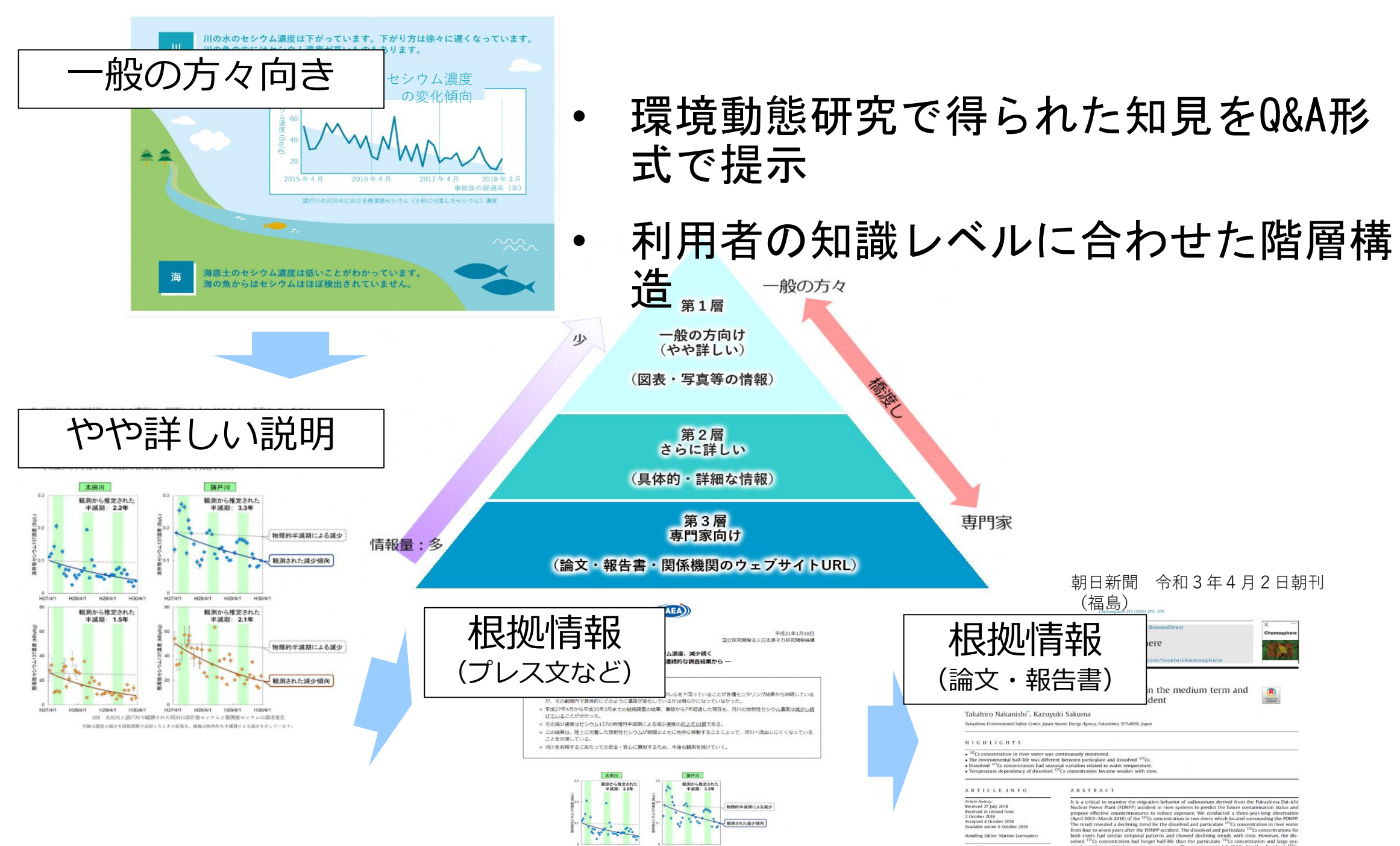
東日本大震災における原発事故により放出された放射性物質の動態や生活環境への影響が懸念される中、調査研究により得られた知見を住民に適時適切に、かつ分かりやすい形で提示することが求められた。そのため、包括的評価システムと題し、調査結果やそれによって得られた知見を取りまとめた情報サイトの整備を行った。

## 福島総合環境情報サイトFaCE!S

福島における放射性物質の影響を適切に判断するためには、データや調査研究に基づき得られた知見と、環境中の放射性物質や空間線量率のモニタリングデータの双方が必要と考えられた。そのため、ポータルサイトとして福島総合環境情報サイトFaCE!S（フェイス）を整備し、そのコンテンツとして根拠情報Q&Aサイトと放射性物質モニタリングデータの情報公開サイト（EMDB）の2つのウェブサイトを整備した。

## 根拠情報Q&Aサイト

根拠情報Q&Aサイトは、主に放射性物質の環境動態に係る知見を整理・提供した。知見を一般向けから専門家向けに段階的に整理し、根拠情報も込めるようにしたものである。JAEAの成果のみならず、環境創造センターで協同する福島県や国立環境研究所が得た知見も含め、住民の疑問に答えるように知見を整理した。令和6年10月時点で170記事を公開した。根拠情報Q&Aサイトは令和7年度以降F-REIへ移管している。



# 放射性物質モニタリングデータの情報公開サイト (EMDB)



<https://emdb.jaea.go.jp/emdb/>

EMDBは、原子力規制庁や東京電力ホールディングスをはじめとする様々な機関が取得・公開しているモニタリングデータを収集・整備して公開しているウェブサイトである。EMDBでは、利用者自らが求めるデータを検索し、地図上で表示し、時系列グラフを表示し、またはデータをダウンロードして用いることができる。令和6年10月時点で、約6,800万件のデータを登録した。

